

令和2年度 美祢市人権教育ふれあい講座・リーダー講座



共に学び！共に生きる！



～一人ひとりの人権が尊重された心豊かな地域社会の実現に向けて～

【第5講座を開催して】

11月16日（月）に、秋吉公民館で、第5講座を開催しました。

第5講座は、山口大学との連携協力事項として、『外国人問題』（国際交流）をテーマに、山口大学教育学部 山口大学大学院東アジア研究科 教授 石井 由理（いしい ゆり）先生から、「異文化理解から多文化共生へーグローバル化社会からの挑戦」と題して、国際理解教育や異文化理解、また文化・風習の違い等による差別・偏見等について、具体的に教えていただきました。

「国際理解教育」という概念を用いてユネスコが普及に取り組んできたことをはじめ、文化・風習等の違いによる疑惑と不信が様々な戦争につながったこと、だからこそ、「文化間の相互理解が必要」であり、「文化は違ってもすべての人の平等な人権を認める」ことが大切なことを学ぶことができました。また、約50年前にアメリカの小学校で実施されたエリオット先生の差別に関する授業の動画「青い目、茶色い目」の視聴では、目の色で優劣をつけ、差別を誘発するエリオット先生の発言により、子どもたちが実際に差別していく様子を見て、教育の重要性やその責任を改めて実感しました。

近年、日本在住の外国人が増加しています。お互いの文化や風習等を知らないことで、差別・偏見につながる可能性があります。まずは、相手の文化・風習等を知ることが大切です。



【受講者の主な感想】

- ・「青い目、茶色い目」の動画で、目の色で差別を誘発するエリオット先生の授業は衝撃的でしたが、差別の無益さが子どもたちにしっかりと伝わっていたように感じました。
- ・「青い目、茶色い目」の映像で、差別や偏見はあるものではなく、作り上げられるものだと感じました。
- ・偏見は人がつくること、集団心理がそれに拍車をかけること、そしてストップをかけるのも、助長するのも教育だと思いました。
- ・『区別される特徴はその人の一部にすぎない』という見方が大切で、自分自身を振り返っても、そう見ていない時もあるのではないかと感じました。
- ・『違いはその人の一部』であり、100対0からお互いに少しずつ妥協しながら80対80の幸せで生きていく覚悟が必要であることを知り、とても参考になりました。
- ・異文化の理解は簡単なことではないが、一人ひとりが学び、知識を深めたり、いつも頭の片隅にとどめたりしておくことが大切だと分かりました。
- ・どのように他者を理解するかを考えている時点で、自分を特別なものとして置いているかを考えさせられました。『自分も人間の1人、他者も1人』というような考えを生活や仕事に生かしていきたいと思います。